

6月の農作業

令和4年6月10日 J A 福井県奥越基幹支店・奥越農林総合事務所

今月のポイント

- ☆ 中干しの徹底と草刈りについて
- ☆ 鳥獣害対策情報
- ☆ 水稻苗の紋枯病対策について
- ☆ 特産野菜・花卉類の防除徹底

気象の推移

令和4年3月から令和4年5月の3ヶ月間では、平均気温、日照時間は平年より高く、降水量は平年より少なくなっています。

平均気温 (°C)		3月			4月			5月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	平 年	3.8	5.3	7.1	9.6	11.8	14.0	16.2	17.0	18.8
	令和4年	1.6	5.7	8.7	10.8	14.3	15.7	15.0	17.2	18.9

参考：3月から5月中旬までの積算値 平年 84.8 令和4年 89.0

降雨量 (mm)		3月			4月			5月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	平 年	54.9	51.8	54.4	45.4	48.3	48.9	45.1	58.8	41.0
	令和4年	28.0	64.0	28.5	3.5	27.5	83.5	13.0	27.5	27.5

参考：3月から5月中旬までの積算値 平年 407.6 令和4年 275.5

日照時間 (時間)		3月			4月			5月		
		上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
	平 年	34.3	43.4	46.6	52.3	53.8	56.7	62.3	58.2	67.7
	令和4年	38.1	37.2	40.8	82.0	68.7	41.1	81.9	34.9	42.4

参考：3月から5月中旬までの積算値 平年 407.6 令和4年 424.7

北陸地方1ヶ月予報

予想される向こう1ヶ月の天候

向こう1ヶ月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。期間の前半は天気は数日の周期で変わるとでしょう。期間の後半は、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。向こう1ヶ月の平均気温は、平年並または高い確率ともに40%です。降水量は、平年並または多い確率40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。週別の気温は、1週目と3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。2週目は平年並の確率50%です。

〈向こう1ヶ月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率(%)〉

【気 温】	20	40	40
【降水量】	20	40	40
【日照時間】	40	40	20

〈気温経過の各階級の確率(%)〉

【1週目】	20	40	40
【2週目】	30	50	20
【3～4週目】	20	40	40

■ 低い (少ない) □ 平年並 ■ 高い (多い)

〈予報の対象期間〉

1ヶ月：5月28日 (土) ～ 6月27日 (月)

〈予報の対象期間〉

5月28日 (土) ～ 6月 3日 (金)
6月 4日 (土) ～ 6月10日 (金)
6月11日 (土) ～ 6月24日 (金)

水 稲

○生育状況と管理の考え方

茎数を早期に確保するため、6月は浅水管理による分げつを促進するとともに、丈夫な株を作りましょう。必要茎数が確保されたら、速やかに溝切り・中干しに移行することが重要です。

また、斑点米被害の原因となるカメムシ類の発生が予想されます。畦畔、雑草地の草刈りを行い、カメムシ類の繁殖を抑えましょう。

分げつの促進と水管理

- (1) 葉色が出始め引っ張っても苗が抜けなくなれば、根が活着しています。
活着を確認したら浅水管理とし、分げつを促します。
なお、計画外の追肥は、遅出来・青未熟の増加につながる為、行わないで下さい。
- (2) 稲が本格的に生長を始め、株がしっかりしたら、早生：6月上旬 中生：6月中下旬までに溝切りを済ませます。軽い田干しの後に行うと作業が効率的です。
- (3) 目標茎数の90%程度（1株18本）を確保したところで、中干しを行います。

本田除草と畦畔の草刈り

- (1) 稲の株が大きくなり、圃場を覆うまでは、除草剤により雑草を抑制しなければなりません。田植え時に使用した除草剤を確認し、必要に応じ、中期・後期の除草剤を散布します。なお、除草剤散布後の水管理に十分な注意を払いましょう。
- (2) カメムシ類は、出穂するまで主に畦畔、農道、休耕田などの雑草地で生息しています。7月上旬まで草刈りをこまめに行い、カメムシ類の繁殖を抑えます。また、イネ科雑草は種子がつく前に刈り取りましょう。
なお、畦を守る背の低い雑草は絶やす必要がないので、草刈りの際は、イネ科雑草や背の高い雑草など、害を及ぼす雑草を重点的に刈ってください。
- (3) 奥越管内一斉草刈デー「ナクソウ（7/9草）」運動を実施します。
斑点米の予防対策の徹底のため、7月9日前後の一斉草刈りにご協力をお願いします。

紋 枯 病 対 策

- (1) 紋枯病が発生した圃場では、菌が稲わらに付着して越冬するため、年々被害が増加します。6月中旬頃から圃場周辺部の確認を行い、病斑が確認された場合は、直ちに粒剤または粉剤で防除しましょう。

体 系	防除時期	薬剤名	使用量 (10a当り)	使用回数
粒剤 (多発圃場)	紋枯病初発時 (出穂10日前まで)	リンバー粒	3～4kg	2回まで
粉剤	紋枯病初発時	バリダシン粉DL	3～4kg	5回まで

雑 穀

- (1) 8月の播種に備え、早期に圃場の排水対策を開始
 (2) 圃場に額縁排水溝を設置（深さは25～30cm）
 (3) サブソイラや弾丸暗渠により、耕盤・心土を破碎し、圃場の透水性を向上
 (4) 大麦の収穫で排水溝が埋まった箇所は、手直し
 (5) 梅雨の間も圃場に水を溜めない
 (6) 帰化アサガオが発芽し始めています。毎年同じところで発生し、早いものでは6月に開花します。

圃場で帰化アサガオが見られたら、抜き取るか、または、グルホシネート系除草剤（ザクサ、バスタ等）で枯らしてください（播種前の登録あり）。

畦畔は、抜き取りか草刈りを行ってください。



- (7) 斑点米カメムシ発生防止のため、「ナクソウ運動」（7月9日前後）のタイミングで、ソバ作予定地の雑草対策（モアをかける、草刈機で刈る等）を行いましょう。

サトイモ

畝間灌水

- ・晴天続きの場合は、夕方3～4日おきに畦間灌水を行い、翌朝には排水する。
※灌水による肥料吸収効果で生育が促進されます。
- ・過乾燥になると、生育が遅れ子芋の着生・肥大が抑制されます。
※排水溝を掘るなどの対策を行い、灌水後に滞水が発生しないようにしましょう。

土寄せと芽かき

- ・株元への土寄せを行いましょう。
※日焼け芋の発生防止と収量向上効果があります。
- ・2芽以上出芽してきた場合には、生育の良い1芽を残し、残りの芽を除去しましょう。

疫病対策

- ・疫病予防のため、6月中旬に1度ジーファイン水和剤またはペンコゼブ水和剤を散布しましょう。
夕方の散布がおすすめです。
※散布する際には、必ず展着剤（スカッシュ、またはアプローチBI）を加用し、株全体にまんべんなくかかるよう散布してください。
※日差しが強く、気温の高い時間帯での散布は薬害発生の原因となります。

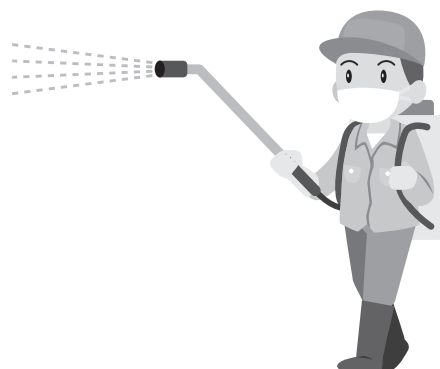
農薬名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備考
ジーファイン水和剤	1,000倍	生育期間中	—	収穫前日まで
ペンコゼブ水和剤	500倍	生育期間中	2回	収穫7日前まで

- ・疫病は一度発生すると急速に被害が拡大していくため、自分の圃場の初発を見極めることが重要になります。

怪しい病斑が見られた際には最寄支店の営農指導員または奥越農林総合事務所までお知らせください。

※平均気温25℃以上で降雨が続くと疫病が発生しやすくなります。

※圃場の周囲など、風の影響を受けやすい部分から発生すると言われています。



ネギ

排水溝の整備

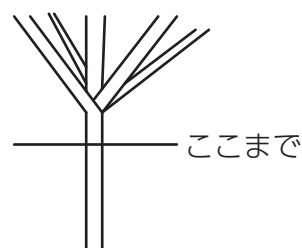
梅雨入り前に畦間の排水溝や額縁排水を施工し、排水性を高めてください。
排水溝の水が最終的に排水口に流れるようにすることが大切です。

除草と碎土について

ソバ跡圃場でソバが大量に発生している圃場があります。ソバが大きくなる前に管理機等で鋤きこむと同時に碎土率を上げ土寄せ作業が行いやすいようにしてください。また、碎土率が悪い（ゴロゴロした土が多い）についても同様な管理を行って下さい。碎土率の悪い圃場やソバが大きくなってしまった圃場（根の塊が多い圃場）では曲がったネギが多くなります。

土寄せについて

本格的な土寄せ作業は、茎の太さが14mm程度になってから行ってください。また、土寄せを行う時は襟首（えりくび）までの土寄せとして下さい。土寄せ初期から襟首（えりくび）を絞め過ぎると細いネギが多くなります。



防除について

定植後、ハモグリバエ対策のための粒剤を施用していない圃場を中心に、ネギハモグリバエ類・スリップス類の被害が大きくなっています。土寄せのタイミングで軟腐病予防のためのオリゼメート粒剤の施用と併せて、ダントツ粒剤などの粒剤を施用してください。早期の防除が効果的です。

○軟腐病対策

農薬名	散布量 (10a当り)	使用時期	使用回数	備考
オリゼメート粒3kg	6kg	土寄せ時 (株元散布) ※梅雨入り前に必ず施用	2回	収穫30日前まで

○ネギハモグリバエ・アザミウマ対策

農 薬 名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備 考
ダントツ粒	—	収穫3日前	植付時1回 株元散布3回	3～6kg／10a使用する
プリロッソ粒	—	収穫前日	株元散布3回	6kg／10a使用する
ベストガード粒	—	収穫前日	植付時1回 株元散布3回	6kg／10a使用する

※同じ粒剤での連用は避けて下さい。

○異常気象対策

資 材 名	希釈倍数	使用時期	備 考
ホスプラス	1,000倍	育苗～収穫期	品質向上・増収・根の健全化

ナ ス

誘 引

株間70～80cmの4本立てとし、誘引方法は「縦糸誘引」とします。合掌上段の直管パイプに35～40cm（株間の半分）で等間隔にビニール紐(白糸系統が望ましい)を結び下段の直管パイプまで引きましょう。4本の主枝の伸長に合わせて、随時ビニール紐に結んでいきましょう。この時「テープナー」を使用すると作業が簡易になります。

ホ ル モ ン 処 理

1～3番花の石ナスの防止と着果以後の生育を安定させるため、開花当日の花にトマトトーン50倍液を花弁がぬれるまで噴霧しましょう。なお、二重散布を避けるため食紅を入れましょう。

防 除 に つ い て

○うどんこ病

農 薬 名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備 考
ベルクート水和剤	3,000倍	生育期間中	3回	収穫前日まで
モレスタン水和剤	2,000～3,000倍	生育期間中	3回	収穫前日まで

○ハダニ類、アブラムシ類

農 薬 名	希釈倍数	使用時期	使用回数	備 考
モベントフロアブル	2,000倍	生育期間中	3回	収穫前日まで

キ ク

今月のポイント

- ・梅雨期に入ると病害虫が発生しやすくなります。早めの予防を心掛けましょう。
- ・今後、白さび病の多発が懸念されます。いったん発生すると止めるのが困難なため予防に努めましょう。
- ・病害虫に抵抗性が出ないようにローテーション防除を心掛けましょう。
- ・収穫時雨に濡れた場合付着している水滴を良く乾かして梱包しましょう。濡れた状態で箱詰めすると、箱の中で、斑点細菌病（葉に黒いしみができる病気）が発生することがあります。

○べと病

主な使用農薬 エムダイファー水和剤

○白さび・黒斑・褐斑病

主な使用農薬 ジマンダイセンフロアブル・チルト乳剤25・ダコニール1000など

○斑点細菌病

主な使用農薬 スターナ水和剤

○スリップス（アザミウマ類）

主な使用農薬 コテツフロアブル・アフーム乳剤・
プリンスフロアブル・ディアナSC

○ハダニ類

主な使用農薬 ニッサラン水和剤・マイトコーネフロアブル

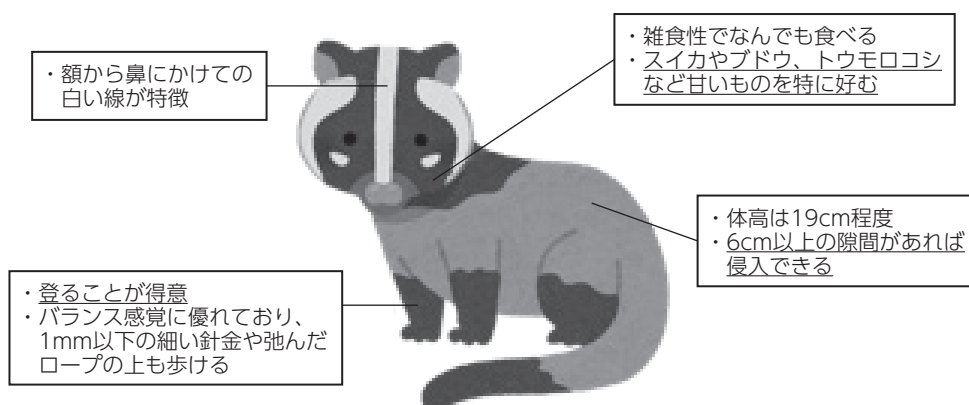


鳥獣害対策情報

夏野菜のハクビシン対策

夏はトウモロコシやスイカなどハクビシンの大好物がたくさん実る季節です。また、気温が高くなり、ハクビシンの行動が活発になりますので被害にお困りの方は電気柵でしっかり対策をしましょう。

【生態】



【対策】

登ることが得意でバランス感覚に優れているハクビシンにはワイヤーメッシュ柵などの物理柵はほとんど効果ありません。また、防鳥ネットやネット柵で防護しても噛み切って侵入してしまいます。

ハクビシンの被害が心配される場合は、「圃場がエサ場である」ことを学習する前に電気柵を張って対策しましょう。特に木登りが得意なハクビシンの習性を利用した防護柵「白落くん」が効果的です。

